

2024 年度浩志会本会員 活動方針

～もっと参加を、もっと対話を、そして変化を！～

本会員代表幹事 大竹雄二（厚生労働省）

はじめに

2023 年度本会員幹事団として活動してきましたが、園田代表が掲げた「**どんどんシェアしよう、皆さんの知見、経験を**」という活動方針に強く共感していました。

”会員各位の知見や経験、つながりは非常に多種多様で、それをシェアしていただくだけでも、多くの方々の知見や経験を豊かにできる機会になる”。このことは、皆さんも広く実感しているのではないのでしょうか。私自身、この1年間の幹事活動を通じて、いくつもの得がたい経験をさせていただきました。

本年度は、この路線を受け継ぎつつ、さらに充実した活動を行っていきけるようにしたいと考えています。

活動方針

そこで、今年度は、「もっと参加を、もっと対話を、そして変化を！」を活動方針にしたいと思います。

（もっと参加を！）

まず、「参加」です。より多くの方にご参加いただくことで、より多様な機会をつくりだすこととなり、より豊かな場になる。そしてそのことが、さらに多くの方々の参加につながり、企画にも気合いが入るという好循環が生まれます。

本会員の皆さんのなかには、「最近、浩志会活動から足が遠のいているなあ」「研究会員のときはかなり参加していたのだけどなあ」という方も多いのではないのでしょうか。そのような方でも、ちょっと顔を出してみようと思える、そして参加してみたら楽しかった、参加して良かったと思えるような活動を増やしていきたいです。

本会員は、業務でも、またプライベートでも、責任がどんどん重くなっている世代です。参加すれば役に立つとわかっていてもなかなか参加できない／それどころではない、そんな方も多いのではないのでしょうか。”そのような状況にもかかわらず”頑張っ

て参加してみようと思うような、少し手が空いたときに参加しようと思えるような、あるいは、責任世代の「第三の場所」になるような、そんな企画や雰囲気をつくってあげたいと思います。

私自身も、正直に申し上げますと、浩志会活動にずっとアクティブに参加してきたわけではありませんでした。たまたま参加できるときに参加してみたところ、非常に有意義な時間を過ごすことができ、また参加してみようと思ひ、そして、本会員活動というのはこのように行われているのだと少しわかるようになって今に至ります。同じように、参加してみて良かったと思える体験を増やしていきたいと心から思っています。

(もっと対話を！)

つぎに、「対話」です。ただ参加し、一方通行の情報を得るだけでは、浩志会である必要は薄いでしょう。やはり、双方向の対話を行い、議論を深掘りすることで、より有意義な機会になると思います。一定の多様性を持ちつつ、しかし共通の価値基盤を有する浩志会だからこそできる議論があるのではないのでしょうか。

私は、「対話」が、様々な組織運営における1つのキーワードだと考えています。ダイバーシティ・マネジメント推進、心理的安全性の確保、エンゲージメント向上等々、今後の組織に求められる様々な概念がありますが、これらを意味あるものとして定着させるための根っこには、「対話」があるのではないかと感じています。

また、組織内の運営のみならず、行政や企業における国民・顧客への向き合い方としても、一方的な情報発信ではなく対話をしていくことが1つの重要なテーマではないかとも思っています。

このような「対話」の習慣が根付くきっかけの1つに、浩志会活動がなればと思っています。今年度から、みなづき会が新たなイニシアティブへと生まれ変わりますが、まさに各方面での対話が必要になるテーマへの取組だと感じています。

また、コロナ禍を経て、対面の場の価値が見直されたという話もあります。オンライン／ハイブリッドの良さを活かしつつ、新しい形を追求していきましょう。

(そして変化を！)

参加をして、対話をする。そしてそれをどう活かしていくのかは、各会員次第かと思っています。とはいえ、皆さんご多用のなかあえて時間を割いて活動しているわけですから、人生に変化をもたらすような、あるいは、停滞した日常を大きくかき回すような、そんなきっかけとなる機会を少しでも作り出していければと思います。そのような活動が、結果として、個々人の成長や、所属組織・浩志会の発展にもつながり、さらには、浩志会が目指すところである、我が国社会の発展と国際社会への一層の貢献に寄与することにもなるでしょう。

そのような将来像もイメージしつつ、ぜひ、楽しみながら活動していければと思います。

活動にあたってのお願い

上記のような姿を念頭に置きつつ、本会員各位におかれては、特に以下の点を意識して活動いただければ幸いです。

①本会員グループ活動の月幹事をしっかりと！

毎年のグループ活動開始時に、グループ幹事が月幹事を割り振ります。やはり、グループ活動が本会員活動の中核です。その活動が有意義なものとなるよう、早め早めに月幹事内でご相談いただき、魅力的な企画となるよう知恵を絞っていただくようお願いいたします。

特に今年は、グループをシャッフルして心機一転再スタートする年ですので、積極的な対応をお願いします。

オンラインでの対応も一般的になりました。地方・海外在住の会員の方も、ぜひ積極的にご参加をいただければと思いますし、新しい形を模索いただければと思います。

② 他グループにも遠慮なくご参加を！

ミニコミ誌をご覧くださいと、グループごとの本会員活動には、幹事の方々のメールアドレスが記載されています。これは、元々、他のグループからも参加 OK!という趣旨で記載されていると伺っています。各グループ、毎月毎月実に魅力的な活動をしています。人数制限があるものは別として、あらためて、他グループからも参加可能であることを周知させていただき、積極的な参加をよびかけたいと思います。そのことが、より魅力的な企画をたてようというインセンティブになればと思いますし、議論の活性化、浩志会活動の活発化につながればと思います。

③ 浩志会全体活動への積極的な参加を！

毎月のミニコミ誌をご覧くださいとご認識いただけるとは思いますが、本会員が中心となって、設立記念パーティ（11月）、夏期全体研修会（8月）、グループ活動の合同月例会（5月）、サロン（随時開催）、世代間交流会（夏期）など、グループ横断的な活動が多く予定されています。

これらは、より多くのグループ・世代の方々が参加する機会となります。これまで参加したことがないという方も含めて、積極的な参加をお願いします。

研究会員時代にコロナ禍が直撃した世代が、本会員活動の中核になりつつあります。対面での活動が制約されたことの影響が、やはりあると思います。幹事団としては、そのような方々にも、あらためて、浩志会活動の醍醐味が伝わるような努力をしていきたいと考えています。

また、研究会員時の「熱」が、なかなか本会員活動につながっていないとも感じます。まずは本会員活動について知っていただくということが第一歩かと思いますが、積極的な声かけや企画などにより、本会員活動へのスムーズな移行にも取り組みたいと思います。

このような方針で、副代表の日本電気・小澤彩子さんと文部科学省・小川哲史さん、そして総勢 44 名の幹事団で、本会員活動を明るく楽しく盛り上げていきたいと思えます。1年間、よろしくをお願いします！

(2000年厚生労働省入省、2017年入会、老健局介護保険計画課長)